

第15話 インドの子供たち

インドにはもう5年ほど訪れていません。その前の長い間で知り合った人達が今どうしているのか。再三出てきたアルワリア、リキシャのサニー、そしてアグラのシャンカーシンみんな心優しい人達でした。

アグラからデリーに戻る時汽車が大幅に遅れたことがあるのですが、デリー駅まで迎えを頼んでおいたアルワリアやスーベラはもう絶対に帰ったと思ったのですが人気のない真っ暗なホームにポツンと立っている二人を見たときは何か信じられない気持ちでした。

タージパレスホテルの民芸品の店はよくのぞいたのですが、そこで働いていた若者はそのうち、追っかけてきて「ここは高いから買わない方がいい。」と耳打ちをするのです。

ホテルの近くで安く国際電話をかけられるスタンドを探した時、小さな自転車屋のじいさんに尋ねたらついて来いと言って、隣の店に入りこの辺に電話はあるかと聞いているのです。こうした素朴とか不思議な親切心は僕らのまわりではもう見かけません。

写真はサニーの娘の学校です。この子供達はまだ学校に行けるから幸せなのかもしれません。この年頃でも働いている子が沢山います。

ラールキラーというオールドデリーにあるお城に行ったとき、車はその辺の野原に停めておいたのですが帰って来たら子供が待っていて、停めたところまで案内するというのです。もう暗くなっていたし、野原には車が一杯でしたからこれには助かりました。この子は最初から僕らに眼を付けていて、車の位置を覚え僕らが城から出てくるのを何時間も待っていた訳です。それで感心してチップを5ルピーあげたら、すかさず彼は「このサービスは5ルピーでは不足である。10ルピーのサービスである。」というのです。インドの子供達に幸いあれです。

